

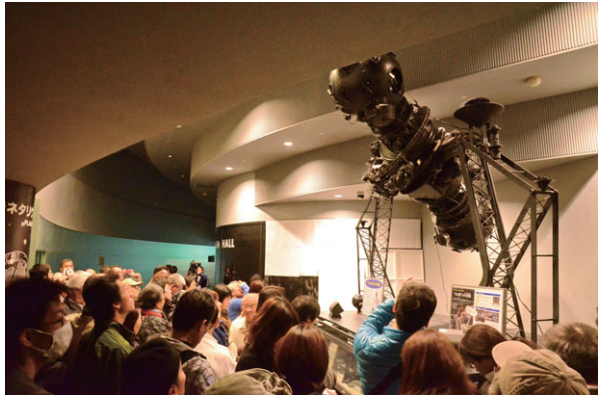


2013年3月16日(土)、電気科学館開館75周年記念スペシャルナイト 「“わが町”の天象儀^{プラネタリウム}」を開催しました。

大阪市立電気科学館が閉館してから25年間、ただ静かに時を過ごしていたカールツァイスⅡ型投影機に、ひとときだけ灯がとまりました。238名の方が参加され、懐かしい、柔らかな星の光を見つめました。

当日は、電気科学館時代からプラネタリウムとともにあった加藤館長に“電館”の思い出を講演いただくとともに、川島雄三監督作品「わが町」(1956年)を特別上映しました。

参加者の皆様から、数多くの感想や、電気科学館の思い出が寄せられましたので、その一部をご紹介します。



- ・小1の夏休みに妹と共に母に連れて行って貰ったのが最初です。帰宅後の宿題の絵日記用にと母が急いで手帳に概略図を描いてくれましたが、後で見ると、保育社の「天文気象図鑑」に昼間見てきたプラネタリウムが写真と解説つきで載っていました。暗くなるまで様々な名曲もかかっていた。覚えているのはチャイコフスキーの弦楽四重奏第一番の第二楽章「アンダンテ・カンタービレ」でした。ドーム内の投影された星座は記憶通りに図鑑で確認しながら描きました。「いつか宇宙に行こう」と本格的に思い始めたのもその頃からです。
- ・天象儀で見たプラネタリウムは小さいけれどよかったです。役目を終えてもこうやってまたみんなで見られるのもよかったです。ありがとうございました。
- ・映画「わが町」に登場したプラネタリウムで、まさにその映画を観る事ができたというのが感動でした。大阪にやってきてすぐに「わが町」を見たときにとても感動しましたことを昨日のここのように思い出しました。今日は夫と一緒に見に来ました。ありがとうございました。
- ・これからもこのような歴史があるイベントを楽しみにしています。
- ・私は82歳です。大阪市内に住んでいて小学校から二度連れてきてもらいました。戦後焼跡の姿を思い出して感無量です。
- ・小学校の社会見学で電気科学館の見学に来ました。プラネタリウムに驚いて家

に帰ってプラネタリウムの写真を見て、画用紙に書いたこと思い出します。あんまりうれしかったので自分の書いた絵を近所の駄菓子屋さんのおばちゃんに見せに行きました。おばちゃんもうれしそうでした。

- ・ 幼稚園の時七夕の日に来ました。とても感激しました。中学生の頃にも来ました。幼い頃の天象儀に会えてうれしくとても良かったです。
- ・ 小～中の頃四ツ橋星の会毎日双子の兄と2人でお世話になりました。「天象」は今でも大切に持っています。終わった後「天文室」にお邪魔して和やかに過ごさせていただいたこと、なつかしく思い出します。
- ・ 小学5年生の時、担任の先生に連れてこられて(任意参加)初めて観賞した折の感激した思いが湧き上がってきました。カールツァイス社のプラネタリウムを移動された折には涙が出る思いになりました。その先生は2年前99歳にして亡くなりましたが、いろいろな想いに浸っております。
- ・ 私は昭和11年生まれです。昔の思い出に感激です。感謝、感謝。
- ・ 高校時代友人3人で毎月電気科学館に通っていました。現館長加藤先生のお声のファンで、ちょうど当たると友人と大喜びしたものです。そんなこともあり今日のイベントとても楽しく懐かしく拝見しました。ありがとうございました。
- ・ 現在60代です。四ツ橋の電気科学館には小学校の時学校から行った記憶があり、とても壮大な画面に魅入りました。それから成人になり何度か行きました。いつ見てもロマンをかきたてられるものがあります。長い間大阪を離れていましたが生まれ変わった科学館に来られてうれしいです。
- ・ カールツァイスの形が個人的に愛着があり動いている姿を見せていただいたことが非常にありがたかったです。私自身博物館学芸員として勤務しておりますが、これだけの多くの方々に愛されている施設だということに感銘を受けたと同時にファンを大切にされるイベントを実施されていることに感動し、参加させていただきたいと思いました。遅い時間まで、素敵な時間を提供していただきありがとうございました。次回があればぜひ今回のチケットを譲ってくれた父とも来させてもらいたいです。

石坂 千春(科学館学芸員)

